

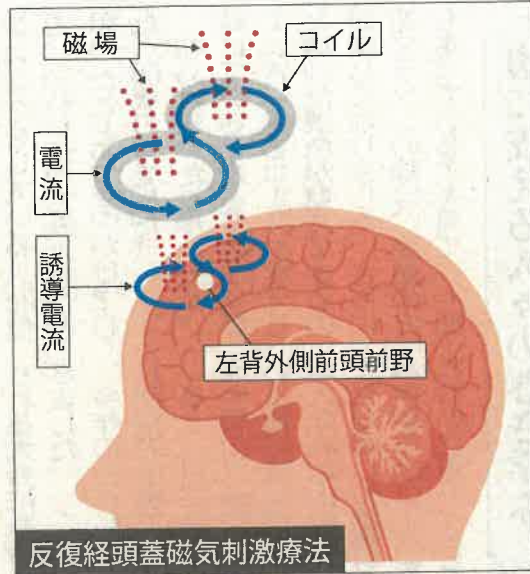
健康



中瀧理仁
精神科神経科
准教授

うつ病は心と体の両面にさまざまな症状を引き起こす病気です。代表的な症状は▽憂鬱な気分が長く▽楽しめていたこと

に興味が持てなくなる▽何もする気が起きない▽などです。眠れない、食欲が低下する(または食べ過ぎる)、集中力が続かない、自分を過度に責めてしまう、将来に希望が持てないといった症状が現れることもありま



反復経頭蓋磁気刺激療法

うつ病に新しい治療法

磁場の変化で脳内刺激

や持続期間、生活への影響などを詳しく確認し、必要に応じて血液や画像の検査をして他の病気の可能性を除外します。

治療の基本は薬物療法と心理療法です。抗うつ薬は脳内の神経伝達物質の働きを調整し、気分や意欲の改善を助けます。心理療法では、物事の捉え方や行動のパターンを見直す認知行動療法などで回復を促します。

近年、薬物療法で十分な改善が得られない場合の新しい選択肢として、反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)が注目されています。これは磁場の変化によって脳内に微弱な電流を生じさせ、神経細胞の活動を調整する方法です。特に気分や意欲

に関する前頭葉の一部(左背外側前頭前野)を刺激することで、低下した脳活動のバランスを整えたと考えられています。

治療は頭部にコイルを当てて磁気刺激を繰り返し与える方法で、手術や麻酔は必要ありません。通常は1回40分程度の治療を数週間続けて行いま

す。研究をまとめた解析では、磁気を発生しない偽刺激と比較した抗うつ効果は中等度の効果を示し、抗うつ薬で十分な改善が得られなかった患者の一部に有効であると報告されています。

刺激した部位の痛みや頭痛などの副作用が出ることはありませんが、多くは軽度で一時的です。けいれん発作などの重い副作用はまれとされています。

ただ、全ての患者に効果があるわけではありません。抗うつ薬に反応しない患者のうち、改善効果があるのは4〜5割程度とされています。

うつ病は適切な治療を受ければ回復が期待できる病気です。症状が続く場合は1人で抱え込まず、早めに相談することが大切です。徳島大学病院精神科神経科では、初診から難治例まで外来と入院で診療しています。

薬物療法やrTMS、電気で頭部を刺激する電気けいれん療法を用いて治療し、できるだけ早く元の生活に戻るよう全力を尽くしています。